

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000227		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホームひまわりの郷		
所在地	江別市上江別西町13番地3 (電話) 011-382-6551		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】 (20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	8年	12月	1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	18 人	常勤	6人, 非常勤	12人, 常勤換算	11.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15000円 暖房料(10~4月)5000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.1歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり野医院、みどり野歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひまわりの郷は、介護保険法施行に先駆けて、医療法人やわらぎが、江別市および日本看護協会の要請を受けて、モデル事業として開設された、先駆的な事業である。交通の便のよい、閑静な住宅地に位置する。現在は当初の建物に隣接して最近新築した建物に移転している。母体医療法人の手厚い支援と、系列の各種高齢者施設との連携の妙味を活かし、多様なサービスを提供している。設立の経緯から行政との連携も緊密で、多くの支援、サービスを受けている。市内同業者とネットワークを結成し、一般職員を含む交流や情報交換、市民向け講座など、多彩な活動を展開している。指導の行き届いた職員一同のもと、利用者は明るく穏やかな生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善事項とされた、家族への金銭収支の報告については、不定期であったものを、毎月領収書と共に家族へ送付するように改善した。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 母体法人内に法人自体の自己評価委員会が設置されており、グループホームは本評価制度をそれに充当させ、法人ぐるみで取り組んでいる。評価には全職員が参加して記載し、管理者の手でまとめあげられた。日ごろの業務を見直す機会として、職員の意識改革に役立てられている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に定例で開かれており、事業所の活動内容、利用者の生活ぶり、事故事例、感染症情報、災害対策などについて話し合わせ、広報誌「ひまわりだより」も題材に提供されている。討議の中から、ホームの活動への理解が広がり、地域のボランティアの受け入れに結びつくなど、多くの成果が実現している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日常的に、家族が遠慮なく話せる雰囲気作りに努め、事あるごとに要望がないか、尋ねている。家族来訪の折には、個別に面談する機会を設けて意見を聞き出しやすくしている。意見、要望などがあった場合はミーティングやカンファレンスなどで話し合い、全員で対応策を検討しながら運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会(町内会)に加入して年末のしめなわ作り、夏休みのラジオ体操、花壇の整備などの活動に参加している。地域の神社の例大祭に参加し、七夕には来訪する子どもたちに菓子をプレゼントして交流している。江別市認知症の家族を支える会や日赤奉仕団のボランティアが定期的に来訪して、手芸やゲーム、散歩などのレクリエーション活動で交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に、管理者を中心に職員みんなが参加して、利用者の安らかな生活とそれを支える職員の努力を目標に掲げる、事業所独自の理念を作り上げた。	○	やや長文の現行理念を、簡潔に作り変えることを検討中とのことなので、さらに内容に地域密着の理念を付け加えることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用の際には理念の教育をしており、職員の役割分担項目の中に理念の内容を盛り込んでいる。事務所と各ユニットの居間の壁に掲示し、職員の名札の裏に縮刷版を添付し、重要事項説明書にも記載するなどして、理念の浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会（町内会）に加入して年末のしめなわ作り、夏休みのラジオ体操、花壇の整備などの活動に参加している。地域の神社の例大祭に参加し、七夕には来訪する子どもたちに菓子をプレゼントして交流している。江別市認知症の家族を支える会や日赤奉仕団のボランティアが定期的に来訪して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	母体法人内に独自の自己評価委員会が設置されており、グループホームは本評価制度をこれに充当し、法人ぐるみで取り組んでいる。評価には全職員が参加して記載し、管理者の手でまとめあげられた。日ごろの業務を見直す機会として、職員の意識改革に役立てられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所の活動内容、利用者の生活ぶり、事故事例、感染症情報、災害対策などについて話し合われ、広報誌「ひまわりだより」も題材に提供されている。討議の中から、ホームの活動への理解が広がり、地域のボランティアの受け入れに結びつくなど、多くの成果が実現している。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>設立の際、市のモデル事業として発足した経緯から、市の担当とは頻繁に行き来しながら緊密な連携関係を築いている。</p>		
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月広報誌「ひまわりだより」を発行して活動の様子を知らせるほか、利用者毎に生活の様子や健康状態を知らせる手紙を書いて送っている。金銭出納は毎月領収書と共に送付し、受診の結果は医師の受診表で知らせている。特別の異変があれば随時連絡している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的に、家族が遠慮なく話せる雰囲気作りに努め、家族来訪の折には、個別に面談する機会を設けて意見を聞き出している。意見、要望などがあった場合はミーティングやカンファレンスなどで話し合い、全員で対応策を検討しながら運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>多くの事業所を抱える法人ではあるが、職員の異動は極力避ける配慮をしている。やむをえない異動に備えて、職員は事業所間の交流を日常的に行い、どの利用者とも馴染みの関係を築くよう、配慮している。退職する際にはきちんと挨拶をし、後日も時折来訪して旧交を温めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には、業務中に学んだことを研修記録として提出させている。法人内に研修委員会があって毎月、折々のテーマで研修会を開き、ほぼ全職員が参加している。事業所内では毎月ミーティングで学習テーマを取り上げている。職員の経歴を考慮しながら年間数回程度外部研修に参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム13事業所の管理者が、「あおいの会」と称する会を結成して毎月定例会の会合を持ち、一般職員も参加して情報交換や合同の行事などを行っている。今後は職員の相互訪問や研修会も企画する予定である。道のグループホーム協議会でもブロック役員を勤めながら同業者と交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や短時間の滞在を行い、必要によっては法人内の他の施設利用を挟むなどして、適切なタイミングを見計らい、無理のない入居となるよう、配慮している。入居の当初は職員が集中的に関りながら、家族にはなるべく来てもらい、時には一時帰宅や家族との外食で不安を和らげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを汲み取る努力をしながら、三味線、囲碁、料理、家事など得意な分野で面目を發揮できるような場面を作っている。昔のことわざや礼儀作法で教えられることも多く、共同生活者としての対等な関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用して利用者の思いや意向を把握している。家族から得る生活歴の情報や、本人からかつて聞いた昔話の蓄積などをもとに理解に努めている。入浴中など、ゆっくり二人きりになる場面が本音の思いを聞くよい機会となっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意向、職員の意見、医師や看護師からの情報を参考にして、利用者の担当職員が介護計画の原案を作成する。その後、介護計画の原案を全職員で話し合い、計画作成担当者が最終計画書を作成する。介護計画書は、家族と、可能な限り利用者にも説明をして確認印を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月の短期目標を設定し、期間終了時にモニタリング・評価を行い、計画の継続や見直しを行っている。最長でも3ヶ月毎の見直しを行っているが、皮膚の疾患など、健康状態などにより、介護計画の見直しを行い、現状に即した計画を常に作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が通院している歯科の送迎などを行っている。訪問看護を利用して事業所において点滴などを行い、可能な限り入院回避をして利用者の負担が軽減出来るように支援している。法人の他事業所との相互支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望するかかりつけ医の受診は可能になっている。かかりつけ医の受診送迎は職員が行い、医師と連携を取る事により、利用者の健康状態を把握して、常に適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケア、事業所としての基本姿勢、医療連携に関する基本的な指針を作成して利用者や家族に説明を行い署名を貰っているが、具体的な対応については、検討中である。	○	看取りに関する具体的な内容の確認と、体制作り、書類の作成を検討中との事なので、早期に書面作成が行われ、関係者と方針を共有していく事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取り扱いマニュアルを作成して書類を管理し、来客受付簿を設置せず、職員が管理日誌に記録するなどプライバシーの保護に配慮している。利用者に対する呼びかけや、身なり、整容などで子供っぽくならないようにするなど、利用者の誇りに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や掃除、買い物の日などある程度決まった日課はあるが、利用者の状況に応じて柔軟に対応している。利用者の希望や意向は優先して対応しているが、他の利用者の通院などがある時は、事情を話して相談をし、状況を理解して協力して貰うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、栄養士の資格を持っている地域生活支援部長が、利用者の希望や旬の食材を取り入れて作成している。利用者の体調によりお粥にしたり、カレーの嫌いな利用者には、同じ食材で肉じゃがに変更するなど、好みに合わせた献立の配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、一人週2回を目標に日曜日以外は毎日入浴を実施している。利用者の希望により、毎日の入浴や、夜間入浴も可能になっている。入浴拒否者に対しては、馴染みの職員が声かけしたり、タイミングをみて入浴に誘うなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や裁縫、掃除機かけ、洗濯物たたみ、畑仕事など、利用者の得意な事で役割を持って生活出来るように配慮している。趣味の三味線や囲碁、外食や温泉に出かけるなど個別で気晴らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩には毎日、時には一日数回出かけ、冬季の散歩など利用者の希望や状況に応じて支援している。冬季は、ドライブに出かけたり、法人施設のホールを利用して冬の運動会を行うなど、体を動かす機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠する事なく、玄関ドアに鈴を付けて利用者の安全面に配慮している。利用者が外出しようとした時は話を聞いて一緒に出かけたり、遠くから見守りながら付いていくなど、状況に応じた対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して年2回消防署の指導のもと、通報訓練、初期消火、避難誘導など利用者も参加して訓練を行っている。運営推進会議においても、近隣への災害時の協力を依頼している。	○	今後、夜間想定避難訓練を実施する予定なので、その取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録して状況を把握している。献立は、1週間を通してタンパク質、熱量、脂肪を計算して栄養管理を行い、摂取量が不足している時は、補助食や高カロリーゼリーを取り入れるなどの配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ボランティアの指導で利用者と職員が作った、たくさんの折り紙作品が壁に飾られている。台所はカウンターになっているため、料理を作っている様子や、匂いなど身近に生活感を感じられる様になっている。	○	四季すべての装飾があったり、日めくりが無いなど、季節感や日にちがわかりにくくなっているので、季節感や期日がはっきり理解できるような工夫を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋という認識が出来るように、家族に使い慣れた物を一つでも持って来て貰うように声かけをしている。縫いぐるみや写真を飾ったり、箆箭の配置など利用者自身の意向を聞いて居心地よく過ごせるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。